

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東棟 )

事業所番号	0692300080		
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会		
事業所名	グループホーム大江		
所在地	山形県西村山郡大江町大字左沢536-1		
自己評価作成日	令和 2年 10月 1日	開設年月日	平成 28年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では「穏やかに笑顔で過ごす」を理念に挙げ、ご利用者様一人ひとりがその人らしく安心して生活できる環境作りに努めています。毎月第二火曜日には利用者様と職員と一緒に食事を作る「手作り昼食」の日を設けています。普段盛り付けなどの家事へ参加されない方へも包丁を使用した食材切りへ参加頂き、個別の支援を大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 2年 12月 7日	評価結果決定日	令和 2年 12月 28日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町役場に近く行政とも連携がとれる環境の中、地域住民とも運営推進会議や行事を通して交流が行われています。今年は新型コロナウイルス感染症予防によりあらゆる事が中止となり、家族等との面会も制限されていますが、少しでも家族や地域とつながりが継続できるように活動風景を載せた広報誌を配信しています。充実した研修内容で職員を育成しており、毎年家族アンケートを実施して信頼関係の構築にも努めています。利用者がその人らしく生きがいをもって暮らせるように、できる事の維持をサポートして自信に繋げ、「○○さん」と名前と呼ばれて嬉しそうにしている姿に職員もやりがいを感じ、より良いケアをめざして努力している事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本に事業所でもグループホームの意義をふまえた理念を掲げている。各ユニットに職員の目に届く所に理念を掲示して周知と実践をはかると共に、朝礼の際に唱和して意識づけを行っている。	理念を実践する為ユニット毎に年間目標と達成にむけての月目標「体操の充実」「身体事故ゼロをめざす」などを掲げて日々取り組んでいる。毎日皆でできたかチェックをして毎月のユニット会議で月間を振り返り、できなかった月はできるまで継続している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防のため、地域行事が中止となっている。面会については感染予防対策を行った上で制約はあるものの、家族とのつながりが途切れないよう面会や電話での対応を行っている。	事業所の夏祭りや地域行事、ボランティアの来訪など今年は新型コロナウイルス感染症予防の為すべて中止となっている。9月から広報誌を区長に持参して回覧板に入れてもらい、事業所の活動を発信してつながりを継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナウイルス感染予防のため、行事などは実施できない状況ではあるが、感染状況が落ち着いた際にはいつでも再開できるよう地域住民の方との連携を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防のため、運営推進会議は文書にての開催であったが、10月より再開している。役場職員、自治会長、民生委員、老人クラブ会長に参加いただき、テーマに基づき話をすすめ、意見や助言をいただき事業所の運営に反映させている。	10月より再開した会議では事業所から重要項目として「コロナウイルス感染症予防対策とその他感染症への取り組みについて」「河川氾濫に伴うグループホームの対応について」などを提示し、参加者から客観的な視点での意見や地元ならではの助言をもらい運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険や諸手続きなどについて、その都度質問やご相談をさせていただいている。また運営推進会議に毎回参加いただいたり、町主催のサービス調整会議に参加し、協力関係を築いている。	町担当者からは運営推進会議に出席を得て町情報や事業所の状況報告に意見をもらっている。またメール配信や役場に出向いて情報収集に努め、利用者の入居条件などを相談したりして関係を築きながら連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	年2回、身体拘束について勉強会を開催している。また、身体拘束廃止委員会を設けて毎月の職員会議の際にチェックリストを用いて読み合わせを行い、支援の確認を行っている。	身体拘束廃止委員会を定期的で開催し、職員会議で拘束にあたるケアがないか確認をしている。また「虐待の目チェックリスト」を使って職員の意識付けを図り、事故報告があった時は速やかに対策を検討して再発防止に努めている。帰宅願望の方もいるが本人が納得するまで話を聞いて気持ちに寄り添う対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎年高齢者虐待防止についての勉強会を実施している。また年3回虐待の目チェックリストを実施して自身の支援のあり方や言動について見直し、事業所内での虐待を未然に防ぐよう努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年権利擁護に関する勉強会を行い、必要な制度の理解に努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書及び重要事項説明書の内容について時間をかけて説明を行い、質問があればその都度、お答えしている。また重要事項の改定時は改めて説明を行い、不明な点がないよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	率直な意見・要望がいただけるよう玄関前に意見箱を設置。また、本人・家族と日頃よりコミュニケーションを取り、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。また家族アンケートを毎年行い施設運営へ反映させている。	毎年家族アンケートを実施して職員の対応や健康面、サービスへの満足度など18項目に返答をもらいサービスに反映させている。今年は家族等とも電話でのやりとりが多く、利用者からは入浴時など1対1の会話から情報を共有して、行事メニューを急遽出前のラーメンにして喜ばれた例もある。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員と面談の機会を設けている。また月1回、ユニットのケース会議で業務や運営についての意見や提案は、それらをまとめて、職員会議で皆で協議して施設運営に役立たせている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や力量を把握して業務を任せている。管理者はサポートを行いつつも、本人に一任する事で責任感や向上心を持って取り組めるようにしている			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回事業所で勉強会を実施している。また年度初めに内外の研修計画を立てて、事業所の全職員が研修を受けられるよう配慮し、職員の知識や質の向上に努めている。	外部研修には管理者から経験年数などを考慮して受講を促し、伝達講習で皆の周知を図っている。毎月行われる内部研修は職員が講師となり、グループホームとは・感染症と予防・接遇などについて学び、救急講習は職員からの要望で実施するなど、内外の研修を通して事業所全体の質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大江町のサービス調整会議に参加し町内の事業所や施設の相談員やケアマネと交流を図っている。	地域包括支援センター主催のサービス調整会議やケア会議、また外部研修の機会に同業者と交流を図り、情報交換しながらサービスの質向上にむけて取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やケアマネより、本人の状態・状況を確認し、職員間で情報を共有した上で安心して入居していただけるように努めている。また要望や困っている事などその都度、ご相談させていただき不安の解消に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の話をお聞きして、不明な点や不安な事があればその都度説明を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族のお話しの中から、いま必要としているサービスや支援を把握して、提供できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員により過剰な支援により自立が阻害されないよう、本人の思いや能力、できる事を見きわめて、職員と一緒にできる事を行い、生活を送れるよう配慮している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の影響で、中々面会が出来ない状況ではあるが、毎月送付しているお便りにて日々の様子を伝えている。直接ご家族と会えた際には必ず現状報告を行い、些細な事でも話し合える関係構築に努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や地域住民、家族など本人が大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう定期的な面会や外出の機会を設けられるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりやすい食席や共有スペースなど環境整備の工夫を行っている。また利用者間の関係性の把握し、特定の人とばかりの交流にならないよう職員が間に入り交流し合えるよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者様のご家族に対しても、必要に応じて相談や支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日常の会話の中からご本人の意向を把握し、ご本人の思いに沿った支援が出来るように努めている。	日々の関わりの中で普段の様子や行動に変化がないか気を付けて観察し、趣味や家事活動などやりたい事を見出してその方に合ったサービスの提供に努めている。月目標にも「食事やお茶の時間は職員も一緒に」を掲げ、ゆっくり会話する時間を大切にして思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際、ご本人やご家族よりこれまでの生活歴や生活環境等をお聞きし、一人ひとりに合った支援に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活や利用者様との関わりの中で状態の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を尊重し、毎月のモニタリングや各ユニットでのケース会議、アセスメント等で現状に即した介護計画を作成している。	その方らしい生活をしてもらう為に必要なサポートは何かを皆で検討して介護計画を作成している。意思を持って選択できるような声がけや好きな事を日課にして張り合いのある暮らしに繋げ、毎月のケース会議で現状や課題を検討して見直しにも反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に残すことで、入居者様に関する情報を共有しながら介護計画の見直しに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域住民との交流やボランティアの活用、お祭りや行事など各種イベントに参加し、地域の一員として豊かで楽しみを持って生活できるよう支援している。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望に合わせて、かかりつけ医へ受診している。必要に応じて職員による送迎や付き添いも行っている。通院が困難な場合は在宅診療所の往診対応もある。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医に受診する方や入居時に在宅診療医の往診に変更する方もいる。家族付き添い受診時は既定の書式で医師への情報提供書を持参してもらい、結果は家族・全職員で共有している。また看護師とは24時間の連絡体制を整えている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週一回同法人の看護師が訪問し、介護職員と協力して、健康面、精神面の観察を行っている。また必要に応じて医師との連絡や相談を行っている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合、医療機関の地域連携室と情報交換や共有を行い、利用者の状態の把握を行い、退院に向けた調整を行っている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化した場合の説明を行っている。本人・家族の希望があれば医師・医療機関と連携し、看取りを行っている。</p>	<p>入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って説明を行っている。食事の量が細くなり身体機能の低下も見られた場合はかかりつけ医の説明を受け、その後の方針を話し合い同意書を得ている。他施設の利用や看取りなどにも応え、ターミナルケアの研修でスキルの向上を図りながら利用者や家族等の意向に沿った支援をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、救命救急法やAEDの使用方法についての確認を年1回行っている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回総合避難訓練を実施している。また、広域災害に備え備蓄等も行っている。	今年度の総合避難訓練は感染予防のため地域からの参加を見送り、利用者と職員で初期消火などの訓練を実施している。また8項目の自主点検表を毎日チェックし、緊急連絡網確認や備蓄・非常持ち出し情報を適時に更新し、有事に備えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう気持ちを尊重し、丁寧な言葉遣い・声がけに気を付けている。プライバシーの確保に注意し、不適切な対応がないよう努めている。	編み物などの手仕事や農業が得意な方には道具や土に触れて感触を取り戻してもらっている。手伝ってもらう場合は一人ひとりのペースに合わせて時間を調整して利用者間に差が出ないように配慮し、役割を持って活気ある生活ができるよう支えている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の自己決定を優先し、思いや希望を探ったり、自分の思いを引き出せるような環境作りに努めている。また、ご利用者様本人の言葉一つ一つを大切にしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、その日の気分や体調によって体操や余暇などの活動へ参加して頂いたり、居室でゆっくり休む時間を設けている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出時は利用者に衣類を選んでいただいたり、髪の設定をしていただいている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月手作り昼食の日を設け、利用者様と一緒に材料を切るなど、食事を楽しめる環境作りに努めている。毎日のおかずの盛り付けなども役割として依頼している。	副食は配食サービスを利用し、盛り付けなどの手伝いで利用者の張り切った姿がみられている。毎月昼食に「調理レク」を取り入れカレーパーティーや豚汁とおにぎりなど皆で和気あいあいと調理し食べ、時にはラーメンや寿司の出前を取り喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の個々の状態に合わせ、刻み食など食べやすい形態での提供を行っている。水分摂取量の少ない方へ対しては、本人の嗜好を把握したり、こまめな提供を促している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。できる限り自分で行える環境整備に努めているが、必要に応じて介助を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者に合わせた排泄の自立支援を行なっている。尿便意が曖昧でトイレへの誘導が必要な利用者については定時で誘導を行うなど、可能な限りトイレでの排泄が行えるよう支援している。	日々の観察で一人ひとりの排泄パターンを把握し、訴えのない方も時間やしぐさを見て誘導し、トイレでの排泄を大事にしている。誘導の声掛けや失敗時は利用者の自尊心を傷つけないように言葉を選びながら行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、適正な水分量を摂取していただくように利用者が好む物を把握して提供している。また体操や体を動かす機会を設けて、便秘の予防や解消に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様がゆっくり入浴を楽しめるよう湯の温度や時間に配慮している。リラックスできるよう、入浴剤の使用やマッサージ等も適宜行っている。	入浴前にバイタル測定して体調を確認し、季節毎に保湿効果や香りを楽しめる入浴剤を使用する日もあり、気持ちよく入ってもらっている。拒否する方には声掛けを工夫して誘導し、浴室での会話は本音を聞ける貴重な時間となっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣はもとより、体調や気分などに応じて居室やソファー等、利用者がくつろげる場で休んでいただけるよう環境を整えている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更があった際は、職員間で情報の共有を行なっている。また服薬表を作成してミスがないよう努めている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴やADLを理解して、やりたい事やできる事を日常生活の中から発見して、役割として促す事で充実感や気分転換をはかっている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や体調に合わせ、散歩や外出レクを行っている。またご家族との協力のもと自宅外出を行っている。	感染予防のため例年のような外出はできなくなっているが、対策をして車窓からの花見ドライブや家族との外食などできる範囲で行い、睡眠や排泄などに良好な効果をもたらしている。前庭では茶話会や手持ち花火大会、焼き芋パーティーなどを行い、外気に触れ楽しみながら気分転換を図っている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりしている現金は、紛失事故防止の為施設で管理をしているが、外出時や買い物時に支払いが出来るよう個別の支援を行っている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば取次の支援をしている。携帯電話を所持している入居者もあり、その都度、連絡をして近況を伝えている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内には季節感のあるものを装飾し、利用者に季節を感じていただくようにしている。また食事の際に音楽を流して心地よい環境作りに取り組んでいる。また気温に応じて定期的な換気はもとより、施設内の温度や湿度調整を行って快適に生活していただくようにしている。	来訪者には検温・手指消毒・アンケートに協力してもらい新型コロナ対策に細心の注意を払っている。食堂では利用者が毎日の体操や新聞・雑誌を読んだり、お茶の時間には職員も一緒に席に着き会話を楽しみ、カラオケやおやつ作りなどの活動ではにぎやかなひと時を過ごしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂は広く開放的であり、ストレスを感じることなく過ごせる空間となっている。入居者の意思を尊重して食席を考慮したり、ソファなどで一人でくつろげるような場所の工夫もしている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れた物を持ち込んでいただき、自宅の延長として居心地よく過ごしていただけるように配慮している。</p>	<p>全室に介護ベッドが備え付けてあり、眠りスキャンで睡眠・心拍・呼吸などの状態を把握し、必要に応じ人感センサーと併用して立ち上がり時のリスクを軽減している。また位牌に水をお供えしお参りする方やテレビを持ち込む方もおり、その方らしく寛げる居室づくりをしている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人のできる事や分かる事を見きわめて、安全に移動や生活ができるよう配慮をしたり、居室の検討を行っている。</p>	/	/	